

## 第2学年〇組 国語科学習指導案

令和7年11月17日(月)第5校時  
場所 2年〇組教室  
授業者 教諭  
学習者 男子 名 女子 名

- 1 単元名 心にのこったところをしょうかいし合おう  
教材名 『ないた赤おに』 はまだ ひろすけ

### 2 単元について

#### (1) 児童について

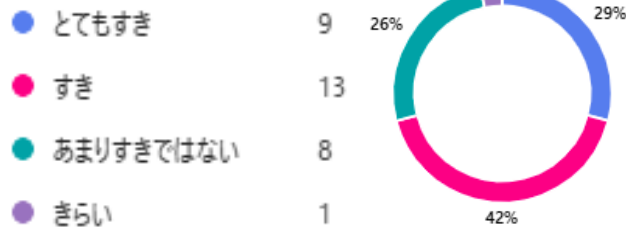
##### ① 児童の実態

本学級の児童は、学級全体での問いかけでは発言する児童が多く、気付いたことや思ったことを進んで述べる児童が多い。また、授業から分かったことや学んだことについて面白さや楽しさに言及する声も多く聞かれる。一方で、挙手して発言する場面になると、国語科では自信をもてない児童も見られる。

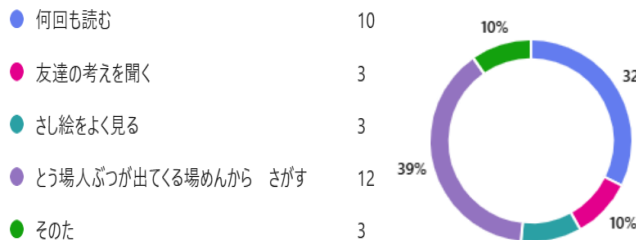
##### ② 集積したデータから分かる児童の実態

#### (ア) 国語科に関するアンケートから

1, 読書は好きですか。



2, 登場人物が どのような人か知りたいとき、どうしますか。



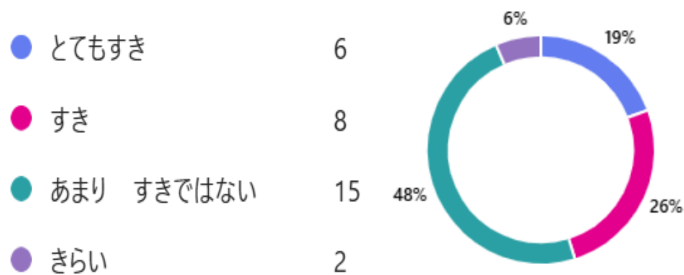
3, そのた をえらんだ人は ぐたいてきに 教えてください。

- ・文章を読んで空想する。
- ・登場人物の言葉に思っていることを話していることがあるので、その言葉をキーワードにして探す。
- ・よく探しても出てこなかったら、先生の力を借りる。

#### <学級の読書活動>

- ・毎週の図書室での貸し出し
  - ・週末の宿題に読書を設定
  - ・ねこばす・司書・担任による読み聞かせ
- 図書は借りているが読まずに返している様子も見られるが、読書活動については70%の児童が好んでいる様子が分かる。
- また、問2, 3から、学級の約半分が登場人物の気持ちを登場人物が現れる文脈から探そうとしている一方で、低学年ならではの、何回も読んだり挿絵から想像したりしている児童も多いことが分かる。本単元でも、挿絵や繰り返しの音読により想像がより一段と広がるようにしていきたい。また、これらだけでは自立的に想像を膨らませることが難しい児童には、場面ごとに挿絵とキーワードを載せたワークシートを準備し、登場人物の思いを想像しやすくなるようにする。

4、心にのこった場めんや、おすすめの本を しょうかいすることは すきですか。



5、4でこたえた 理ゆうは 何ですか。

<好き・とても好き>

- ・自分がおすすめする本をみんなに読んで欲しい（教えたい）から。（3）
- ・思いを知ってもらえるから。（3）
- ・みんなに自分の考えを広げたいから。
- ・みんなにコメントを言ってもらえるから。
- ・感想をいっぱい書くと、紹介したくなる。

<きらい・あまり好きではない>

- ・恥ずかしいから。
- ・緊張するから。
- ・みんなの前で発表するのが好きではないから。
- ・話したくないから。
- ・うまく説明できないから。（2）
- ・そのお話のワクワクする言葉を探すのが大変だし、心配だから。
- ・本をあまり読まないから。

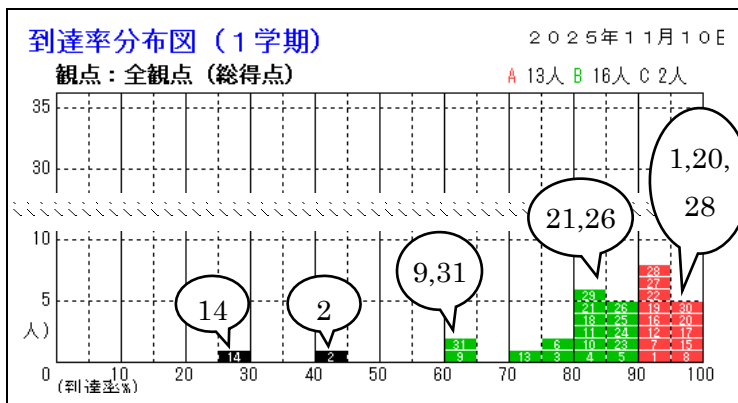
問4、5の結果から、学級の半分以上が自分の思いを紹介する活動を苦手としていることが分かる。

本単元では、第三次に「お話びじゅつかん」と称して自分の思いに残った場面を紹介し合う活動を設定している。苦手意識のある児童は、全体の前で話すことに抵抗を感じている児童が複数見られることから、活動はペアで行い話しやすい場となるようにする。また、紹介文を作るところから苦手意識を感じている児童がいることから、実態に応じてモデル文を見て真似して書いたり、穴埋め式や選択式にして言葉を表記できるようにしたりする。また、学習を教師や友達と行ったり、「1・2年生用 つかえるようにしたいことば・わかるようにしたいことば（「読解力」を伸ばす読書活動 井上一郎著 明治図書）」を使って語彙を選んだりするなど、多様な学び方を支援する。

### (イ) スクールダッシュボードから

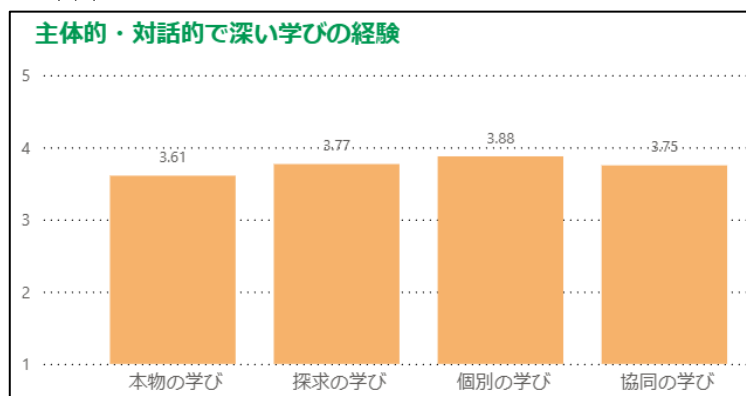
右表は、株式会社内田洋行に依頼し取り出してもらったスクールダッシュボードのデータを、教育研究所渡曾先生が分析されたものである。ここから、番号21,26,28,1,20の児童の数値が本学級下位3位に入っていることが分かる。特に、28の児童は全ての項目において数値が低い。

右表を1学期の業者テスト結果(下図)と関連させ、日頃の様子も併せて分析すると、2、9の児童は授業アンケートのタップする項目が習慣化されているように考えられる。1、28の児童は、テストの点数は高いが授業では「何を問われているのか、何を答えたらよいのか分からない」と述べることもある。21の児童は、授業で発言したり教師に質問をしに来たりすることはほとんどないが、個別に問うと「よく分からない」と答える。本単元では、これらの児童を特に意識をして手立てを講じていきたい。

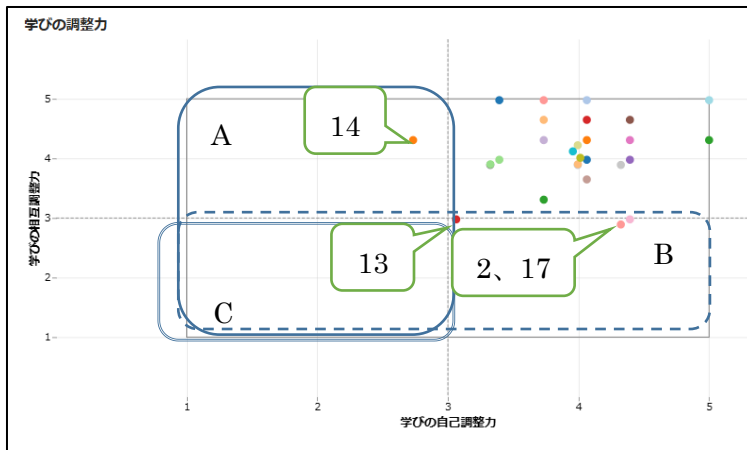


回答回数	主体性	達成	意欲	平均	
1	220	3.99	3.99	2.96	3.65
②	29	3.99	3.94	3.96	3.96
3	72	4.00	4.00	4.00	4.00
4	10	3.99	3.94	3.96	3.96
5	51	3.89	3.56	3.39	3.61
6	18	3.98	3.76	3.96	3.90
7	46	3.93	3.84	3.95	3.91
8	61	4.00	4.00	3.53	3.84
⑨	66	4.00	4.00	4.00	4.00
10	6	4.00	3.92	3.96	3.96
11	51	3.79	3.67	3.58	3.68
12	33	3.75	3.70	3.93	3.79
13	56	4.00	3.98	4.00	3.99
⑭	83	3.74	3.67	3.69	3.70
15	54	3.91	3.97	3.95	3.94
16	64	3.80	3.36	3.91	3.69
17	76	3.80	3.65	3.63	3.70
18	46	3.98	3.86	3.85	3.90
19	65	4.00	4.00	4.00	4.00
20	55	3.72	3.93	3.68	3.78
21	72	3.61	3.24	3.09	3.31
22	46	3.97	4.00	3.71	3.89
23	69	4.00	4.00	4.00	4.00
24	64	3.95	3.95	3.88	3.93
25	59	4.00	4.00	4.00	4.00
26	40	3.85	3.08	2.60	3.18
27	73	4.00	4.00	4.00	4.00
28	62	2.92	2.89	2.35	2.72
29	63	4.00	4.00	4.00	4.00
30	89	4.00	4.00	4.00	4.00
31	71	3.83	3.62	3.66	3.70

### (ウ) ScTN から



「主体的・対話的で深い学びの経験」の結果から、全体的に高い結果ではあるが、児童は「個別の学び」「探求の学び」「協同の学び」の経験をしていると感じる一方、「本物の学び」については他と比べて経験数が少ないことが分かる。



学びの調整力を見ると、本学級は比較的 A、B、C 以外の範囲の児童が多く、C の児童もいないことが分かる。そして、A の範囲に 14 の児童が、B の範囲に 13、2、17 の児童がいることが分かった。

A の「学びの自己調整力が低い」範囲の児童は、教師の視点からも「自分一人の力で目標や計画を立てて学習をしたり、見通しの立たない問いや課題に挑戦したりする学び方を苦手と感じている」と感じられるので、教師や友達とともに確認しながら進めるようにしたい。B の「学びの相互調整力が低い」範囲の児童は、「対話的に学習に取り組む態度」の数値が低い訳だが、実際の授業でも「教師と取り組む」学び方を選択することの多い児童である。個々の弱いところを見極めて適宜指導しながら励まし、自信をつけさせたい。

日常の指導においては、上記以外に 4、11、19、24 の児童へ個々の指導が必要となることが多い。これらのことから、以下の児童について次のような手立てを講じる。(児童を表す数字に○が付いている児童は、教師が「特に支援を必要とする児童」と想定していた児童外の児童。)

日常の指導においては、上記以外に 4、11、19、24 の児童へ個々の指導が必要となることが多い。

これらのことから、以下の児童について次のような手立てを講じる。(児童を表す数字に○が付いている児童は、教師が「特に支援を必要とする児童」と想定していた児童外の児童。)

	実 態	手立て
児童①	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業への意欲を対面で問うと、全般的に意欲がもてないとのこと。授業中には自発的に友達と関わり考えを交流させているが、内容を理解できていないことも多い。単元テストでは、ほとんどの児童ができていたような問題で間違えていることが複数ある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学び方の選択により、意欲を継続していけるようにする。</li> <li>ルーブリックに基づいて、内容をどの程度理解できていて、どこをつまずいているのか、こまめに声掛けをして見取り、「わかった」に繋がるように支援する。</li> </ul>
児童 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>音読をすらすらと行うことができる。文脈から情景や登場人物の気持ちを読み取ることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面と問いを厳選したワークシートを用いて、考えを書くことができるようにする。</li> </ul>
児童 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>行動・思考に人一倍の時間がかかる。授業に関する発言・表記はほとんどできない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面と問いを厳選したワークシートを用いて、考えを書くことができるようにする。</li> </ul>
児童 9	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を短文で書くことが多い。業者テストでは本文や問題文から意図を読み取ることに困難を感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面と問いを厳選したワークシートを用いて、考えを書くことができるようにする。</li> <li>度々、どこにつまずいているのかを確認する。</li> </ul>
児童 13	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読んだり、文脈から読み取ったりする力がやや弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師が学習の手引きを作成し、それを参考にしながら進められるようにする。</li> </ul>
児童 14	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読んだり、文脈から読み取ったりする力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面と問いを厳選したワークシートを用いて、考えを書くことができるようにする。</li> </ul>
児童 17	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の集中力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師が学習の手引きを作成し、それを参考にしながら進められるようにする。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>度々声掛けをして集中を促し、達成したところを称賛して自発的な意欲に繋がるようにする。</li> </ul>
児童㉑	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題文から意図を読み取ることに困難を感じている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面と問いを厳選したワークシートを用いて、考えを書くことができるようにする。</li> <li>度々、どこにつまずいているのかを確認する。</li> </ul>
児童 26	<ul style="list-style-type: none"> <li>マイペースに学習を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>声掛け・称賛を度々行い、集中かつ意欲的に学習に取り組めるようにする。</li> </ul>
児童㉒	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業への意欲を対面で問うと、全般的に意欲がもてないとのこと。分からないところもあるが、どこが分からないか聞いても具体的な言葉は出てこない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師が学習の手引きを作成し、それを参考にしながら進められるようにする。</li> <li>度々、どこにつまずいているのかを確認する。</li> </ul>
児童 31	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を読んだり、文脈から読み取ったりする力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面と問いを厳選したワークシートを用いて、考えを書くことができるようにする。</li> </ul>

## (2) 教材観

本単元は学習指導要領第1学年及び第2学年の内容をもとに設定されたものである。

### 1 [知識及び技能]

- (1) ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。  
(3) エ 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。

### 2 [思考力、判断力、表現力等]

#### C 読むこと

- (1) エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。  
(1) オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。

本単元では、教材文について、場面の様子から登場人物の行動や心情の変化を具体的に想像しながら読み、心に残った場面について絵と題名で表し、友達に紹介する言語活動を行う。

教材文『ないた赤おに』は、多くの場面・部分において、豊かな教材性が含まれているものである。例えば、

- 言葉から自分なりに人物や事物の「像」を思い浮かべたり、
- 具体的には語られてはいない人物の心理などを、他の場面・部分の読みと結びつけるなどして、論理的な整合性も図りながら思考し、想像したり、
- 物語の続きを想像したり、
- 本物語を通した自分自身の願望・価値観・葛藤などを言葉にして、自身の内面の成長を促したり、
- おにと人間の間接関係を、自分と学級集団等と、自身の生き方に照らして考えたり、「偏見差別」「真の融和」の視点で考えたり

していくことができる。さらにはそうした思考・想像の過程において、言葉・表現の美しさや、それに伴う効果などにも自覚的になっていくことが期待できる。これらは、国語科の目標とする(2)の「思考力や想像力を養う」ことや「(3)言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切

さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う」ことにつながるものである。これらのことから、本教材は、本単元の目標「C(1)エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。」に迫ることのできる教材といえる。

一方で、人物の変化を読み取るためには、その前提として当然、その作品に人物の変化が描かれていなければならない。しかし本教材文には、赤おにをめぐる環境の変化は描かれているが（人間が家に来るようになった。青おにが去った）、主人公赤おに自身に変化したことを直接的に示す描写は見当たらない。敢えて変化らしきものが読み取れる場面を挙げれば、結末で、青おにが書いたはり紙を読んだ場面かもしれない。ここで、赤おには自らの行いを反省したのではないかと推測はできるが、それは推測の範囲であり、また、これをもって、赤おにが変わったとまでは言い切れず、この部分を「変化」として児童に読み取らせるのは無理があると考え。

以上のことから、児童の学習課題の視点として、「主人公赤おにの心情の変化を読み解こう」と限定させることは難しく、多様な見方ができるものと考え。以下、課題として立てられる視点と、それにかかわる内容を挙げる。

#### ○赤おにの人間への思い

赤おにの人間への思いが表れている場面・文

赤おには、青おにと違って、木こりが近づくことのできる山のがけのところ（人里に近い方の山奥）に住んでいる。

「わたしはおにに生まれてきたが、人のためには、よるこんではたらきたいな。できることなら、人間たちのなかまになって、なかよくくらしていきたいな。」

（因みに、教科書に掲載されるまでの過程で本作品も諸々表記が改訂されていたりカットされていたりするのだが、本箇所もそのうちの一箇所である。参考までに、『ひろすけ童話選集』では以下のように表記されている。）

「わたしは、おにに生まれてきたが、おにどものためになるなら、できるだけよいことばかりをしてみたい。いや、そのうえに、できることなら、人間たちのなかまになって、なかよく、くらしていきたいな。」

立て札を見た木こりが、自分たちをだまして食おうというつもりかもしれない、と話すのを聞き、「とんでもないぞ。だれがだまして食うものか。（ばかにするない。）」と憤る。（（ばかにするない。）も教科書では削除されている。）

二人の木こりに対して赤おには、「おい、木こりさん。」と敬称をつけて呼びかける。

#### ○赤おに・青おにの互いを思う気持ち（友情）

- ・「青おには、その日の朝に、遠い遠い山の方からうちを出て、あそびにきたのでありました。」
- ・（青おに）『なあに、ちっともかまわない。』
- ・（赤おに・青おに）「こつんと強くうつまねをしました。『だめだめ、しっかりうつんだよ。』『いいから早くにげたまえ。』『青くん、まてまて。いたくはないか。』」
- ・（青おに）戸口のはり紙 自己犠牲的な行動

#### ○赤おにの性格

- ・おにの子どもが小石を投げつけてもにっこり笑っているやさしい姿

- ・自分の期待と反する人間の行動に怒りを示す気の短さ（試行錯誤していない。）
- ・おにを警戒する人間に対して、ただ立て札を立てて仲良くしようと待っているだけで、ほかの働きかけを行うことに思いが及ばない。
- ・「君にすまない」と言いつつ、青おにの提案にのって偽りの演技を行ってしまう。主体性が認められない。

#### ○青おにの性格

- ・一方的に提案し、一方的に赤おにから去っている。
- ・赤おにが人間に疑われないように自分が姿を消す、知恵・行動力・自己犠牲的な愛  
「だれかが、ぎせいに、身がわりに、なるのでなくちゃ、できないさ。」→よりよき再構成につながる破壊を恐れない行動
- ・残された赤おにの心情に思いが及ばぬ自己満足的な偽善性
- ・相互的なコミュニケーションには欠けている。

#### ○人間とおにの関係

- ・人間は一方的に、おにを恐ろしい存在、だましたり襲ったりする者と認識している。
- ・赤おにとせっきやく出来た人間との関係も、訪れる村人にただおいしいお菓子やお茶を出すだけの一方的なもの。人間側から見ると、赤おにからいただくだけで、何かの差し入れがあった描写はない。ギブアンドテイクにならない、不平等な関係。

#### ○話の変化のきっかけとなった「たて札・騒動（演技）・はり紙の意味」

たて札…メッセージを一方的に多数の人に向けて発信するもの。受け手が複数人だった場合、メッセージ内容は、周囲の者と感想や意見を交わした上で解釈されることになる。つまり、赤おにの書いたたて札を、1人目の木こりは不思議に思っただけだったが、鬼はもともと「怖い」「乱暴者」と考えている人間（仲間）によって、「とんでもない。だまされるものか。」と赤おにの思いとは裏腹の状況をつくり出すことになった。

騒動（演技）…「乱暴者を退治する者は優しい」という人間の考えを利用した。「あの赤おには、やっぱりやさしいおになんだ。」と認めたのは、例のたて札に「ココロノ ヤ サシイ オニノ ウチデス」というメッセージが書かれていたから、人間はそれを想起したのだろう。

はり紙…特定の場所にきた相手に時間を隔ててメッセージを伝える特徴がある。青おには過去のある時点で、赤おにが自分のすみかにやってくることを予想し、別れを告げるはり紙を書いていたことになる。青おには、過去に既に姿を消すことを決心していた。このコミュニケーション（はり紙）は、赤おにを悲しませ、深い後悔を抱だかせるように作用したと考えられる。

#### ○青おにはなぜ去ったのか。また、それを知った赤おには、どう思っているか。

- ・去った理由→「○青おにの性格」同上
- ・赤おには真の孤独に直面。
- ・赤おにが考えただろうこと（内省）  
→・青おには自分にとってどういう存在であったのだろうか。  
・演技をしてまで村人と仲良くしようとしたことはどうだったのか。

- ・これから村人とどうつきあっていけばよいか。

<最後に共通して考えたい問い>

- 赤おには、これで本当に幸せになったのだろうか。
- 青おにの自己犠牲のおかげで赤おにの願いは叶ったのだろうか。

→この裏には、変わらずおにに対する人間の偏見差別があったために、ここから解放されない赤おにの願いを叶えることができなかつた悲しみを見ることができる。また、赤おにはきっとそこから内省し、主体的な再起へと促されたに違いないと、読者による願望も生まれるだろう。

児童とともに課題を設定しつつ、この中から選択できるようにし、探究学習を進めていく学習過程を設定する。

第一次では、第三次に行う「本紹介」の教師によるモデルを見せて、学習のまとめとして「お話しじゅつかん」を作って発表会をすることを知らせ、子どもたちの意欲の高揚を図る。本教材を学習し、並行読書をした本の中で心に残った場面について紹介し合うという学習の見通しをもち、学習計画を立てる。

第二次では、教材文『ないた赤おに』を通して、登場人物の行動や会話、出来事に着目しながら読み課題（問い）を探究することで、言葉・表現を丁寧にたどりながら読むことで登場人物の思いを想像したり深く探ったりすることができることや、多様な見方から登場人物の思いに迫ることができること、ひいては、その結果、作者の思いを図ったり自分の生き方を考えたりすることができることに気付けるようにしたい。そして、心に残った場面について紹介する活動では、登場人物と自分の体験を結び付けて紹介することができるようにしていきたい。

第三次では、第二次までに身に付けた力を活用し、並行読書した「おに」が出てくる話を含めた、中心人物に変容のある本の中から、お気に入りの一冊を選び、心に残った場面について絵と題名で紹介する。『ないた赤おに』の「おに」と比較したり、自分の体験と結び付けて自分と比較したりしたことを織り交ぜながら、紹介できるようにする。紹介する人と話を聞く人に分かれて「お話しじゅつかん」を巡り、聞く側になった児童は、必ず質問するようにする。説明したり質問に答えたりすることを通して、友達と楽しみながら作品のよさを紹介し合えるようにしたい。

### (3) 指導観

本学級では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、初発の感想で出た児童の疑問や感想から課題を立て、その答えを個人やグループ、一斉等で考えたり話し合ったりしながら見つけていく学習を行ってきた。また、1学期の学習から並行読書を行って第三次に学習を応用する言語活動を取り入れた学習課程を行ってきた。

	教材名	○主な発問 ・学習の流れ	言語活動
1 学 期	物語「はるねこ」	○登場人物の気持ちの変化を読み取ろう。 ・登場人物「はるねこ」の気持ちがどう変化したのか、根拠をもとに話し合うとともに、文には書かれていない気持ちを想像した。	・登場人物紹介カード
	説明文「すみれとあり」	○「問い」「答え」を見つけよう。 ○なぜ、ありの巣の近くにすみれは咲いているのだ	・いきものクイズ（オクリンクプラス）

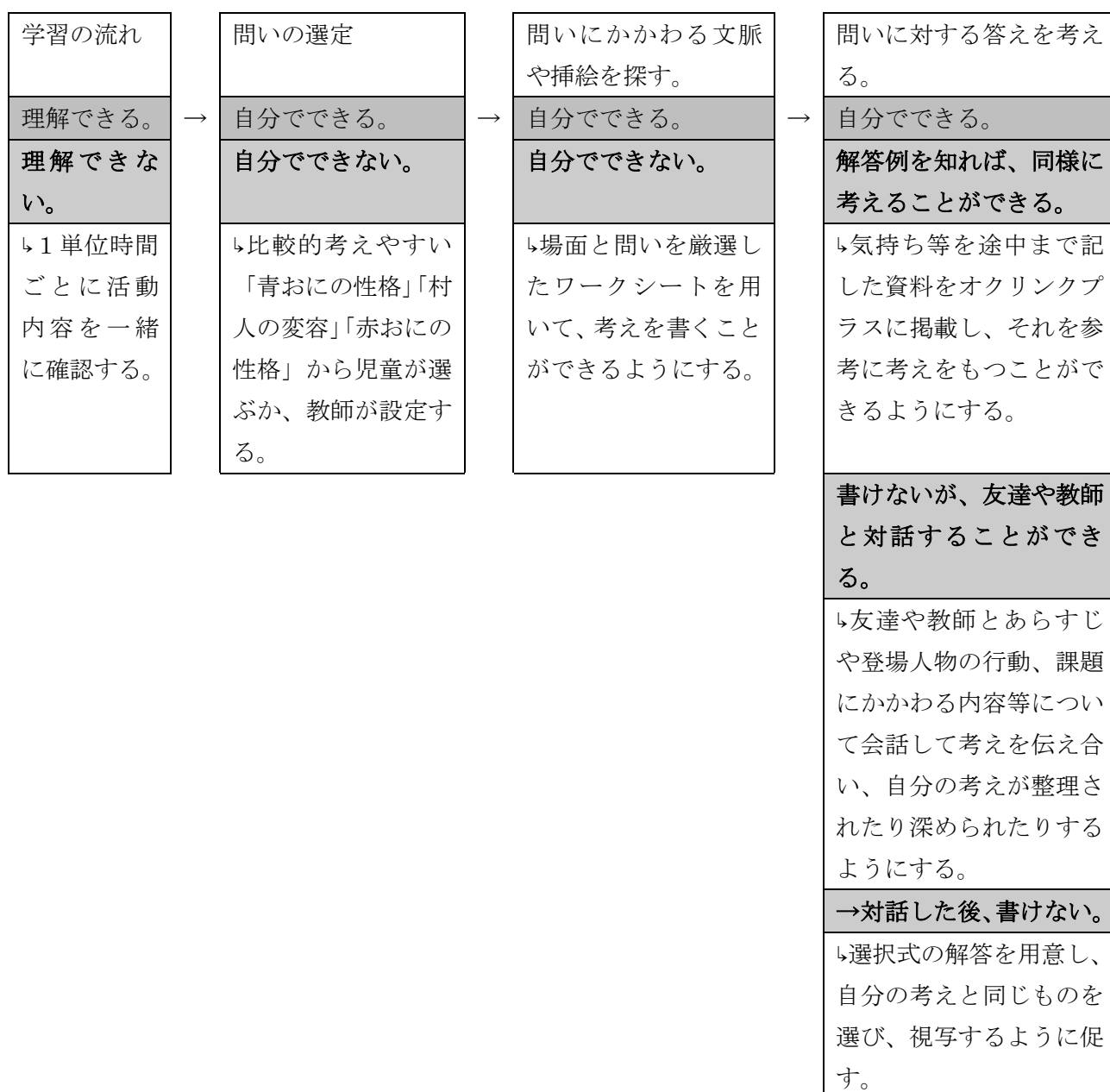
		ろうか。 ・順序を表す言葉に着目して読んだ。	
	物語「きつねのおきやくさま」	○なぜ、題名が「きつねのおきやくさま」なのだろうか。 ・場面読み、登場人物の気持ちを追っていった。	・好きな場面紹介カード ・音読劇
2 学 期	物語「わにのおじいさんのたからもの」	○「わにのおじいさん」「おにの子」はどのような人物なのだろうか。 ○「わにのおじいさん」「おにの子」にとっての宝物は何だろうか。 ○なぜ、題名が「わにのおじいさんのたからもの」なのだろうか。 ・問いを児童とともに立て、一斉に上記の問いについて考え、生活班で議論しながら進めた。	・本の帯
	説明文「さけが大きくなるまで」	・「いつ・だれが・どこで・様子」の4つの観点で表に整理しながら読んだ。 ・表の作成が早く進んだ児童は、友達と内容の確認を行った。	選択式 ・成長のルーレット ・絵を中心に言葉も入れてまとめる。 ・言葉を中心に図や表にしてまとめる。

これらにより、主体的に問い（課題）に対して本文から根拠となる描写を探し、そこから分かる思いや想像した考えを力強く述べる児童が多く見られるようになった。さらに、国語の学習を三次で構成する学習を重ねたことで、アンケートでは「心に残った場面やおすすめの本を紹介すること」を好きと回答する児童は半数に満たないが、学習過程を自ら立て、学びを生かそうという意識が身に付いている児童が多い。

ここまで積み重ねてきた本学級では、本単元では自分で課題を設定し探究していく学習課程を設定したい。

とは言え、課題を自力で立て追究できる児童と教師とともに進めたい児童（学級の1/3）が混在しているため、課題は初発の感想から既に感想や疑問として挙げたものや、一斉での教師との対話の中から出された意見等から設定し、選択式で自分の問いとすることができるようにする。探究学習は個別最適なものとなるよう、学習形態を「個・ペア・グループ・教師と」から自分で選んで活動させる。課題ごとの児童名はタブレット上のエクセルで一覧とすることで、教師がいつでも把握し支援したり、児童が考えを交流する友達を把握したりし易くなるようにする。

探究学習は、すぐに友達と一緒に考えたがる児童が多いが、まずは個人で考えをもつことが大事である。児童が難しさを感じる場面を、以下の表にまとめる。



本学級の児童は、自分で学習を進めていくことができる児童もいれば、それぞれの段階で難しさを感じる児童も少なくない。そこで、それぞれの場面に応じた手立てを上記のように講じる。

また、授業アンケートに記す学習感想の質を向上させ、根拠に基づいて登場人物の心情を想像する大切さと、文章を読んで感じたことや分かったことを共有することによって考えが深まる楽しさに気付き、「深い学び」に繋がるように、量にも留意し、記す時間を最低7分は取ったり授業の最後に教師が読み上げて共有したりする。

### 3 「分かった」「もっとやりたい」子の育成を目指した指導と評価の手立て

**学習の見通しをもったり自分の考えをもったりし、主体的に取り組めるようにするための工夫**

#### 手立て①問いの精選

問いは初発の感想から既に感想や疑問として挙げたものや、一斉での教師との対話の中から出された意見等から、描写が複数個所に書かれていたり想像を膨らませたりすることができる問いを精選する。

## 手立て②継続的なパワーアップ問題の取組

書く・話す・題名をつける・聞く・読む活動を1週間ごとに繰り返し、それぞれの学習活動に慣れ、基礎的な力を高められるようにする。

(月)書く(3分)...教師が設定したテーマに関することを、原稿用紙の使い方に気を付けながら記す。(短時間のため、消しゴムは使用しない。)

(火)話す... (月)に書いた内容を隣の人に読んで聞かせる。隣の人は①声の大きさ②主題の伝達度合い③内容の詳細度合いについて、評価する。

(水)題名づくり...教師が児童の文章から1点選び共有する。児童はその文章に合う題名を考え、オクリンクプラスに記す。その中から1点教師を選び、その題名にした理由を問う。

(木)聞く...教師が児童の文章から1点選び、読み上げる。その中から質問を1つし、児童は回答をワークシートに記す。

(金)読む(2分)...音読の宿題となっている教材文を時間内に音読する。前回より読める量が増えることを目指す。

## 対話的な学びとなるための工夫

### 手立て③対話する場の設定と喚起、また話し合いのモデルの提示

ある程度の考えがまとまったら1時間に1回はオクリンクプラス等を参考に、気になる意見の友達と考えを交流する(自分の考えをアウトプットする)ようにして、児童の考えが広がるようにする。また、「話し合いの問いかけ例」をモデルとして掲示しておき、必要に応じて活用できるようにする。

### 手立て④オクリンクプラスの活用

簡単な反応を示せるコメントやリアクション機能を効果的に使用し、学習意欲を向上させたり対話の糸口になったりするようにする。

## 深い学びとなるための工夫

### 手立て⑤探究学習の単元設定

一斉による対話、グループによる対話の学習を積み重ねる。その後、児童自ら問いを選択し、個で学習を進められるように学習の手引きやワークシートを示し、友達と考えを交流する単元を計画・実施する。

### 手立て⑥ワークシートの活用

一人で考えることに困難さを感じる児童には、場面を限定し描写や挿絵を入れたワークシートを配布したり、前方に集めて一緒に考えるようにしたりする。

### 手立て⑦Teamsを活用し、単元学習後の意見交流の場の設定

本活動からさらに日頃の読書活動に発展するように、オクリンクプラスに感想を挙げるようにするとともに、Teamsの学級のチャンネルに「読書の広場」を開設し、本の感想を共有して読書の楽しみが広がるようにする。

### 手立て⑧オクリンクプラス・ノート・授業アンケートを活用した形成的評価とフィードバック

児童の進み具合を確認するとともに、授業アンケート設問7(本学級独自「次の学習の見通しをもっていますか」)から学習への困り度合いを把握し、オクリンクプラス・ノートの場合はコメントにて学び方の称賛や助言を行う。

## 個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実となるための工夫

### 手立て⑨学習スタイルを意図的に設定した単元計画

単元を計画する際に、どの場面で個別最適な学び・協働的な学びの場を設定し手立てをどうするのかを構想する。

### 手立て⑩学習の手引きの作成

主体的に活動できるように、児童と確認した単元全体、ならびに1単位時間の進め方をCanvaにまとめ、児童がいつでも確認できるようにする。

### 手立て⑪学習進度や内容の教師の見取り

児童の進み具合を確認するとともに、授業アンケート設問7（本学級独自「次の学習の見通しをもっていますか」）から学習への困り度合いを把握し、学習スタイルや課題追求の内容等を助言する。

## 4 単元の目標

- (1) 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。(1)ア〔知識・技能〕
- (2) 読書に親しみ、いろいろな本があることに気付くことができる。(3)エ〔知識・技能〕
- (3) 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。C(1)エ〔思考力、判断力、表現力等〕
- (4) 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。C(1)オ〔思考力、判断力、表現力等〕
- (5) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

## 5 単元の評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
言語活動 物語を読んで心に残った場面とその訳を書き、紹介し合う活動 学習指導要領との関連 (C読むこと 言語活動例 イ 読み聞かせを聞いたり物語を読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動)		
① 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(1)ア ② 読書に親しみ、いろいろな本があることに気付いている。(3)エ	① 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(C(1)エ) ② 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)オ)	① 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとしている。

## 6 指導の計画（11時間扱い）

時	○学習活動	学習スタイル	学習内容	・指導上の留意点 ○手立て ◇評価

第一次	1	<p>○毎時間のはじめに、パワーアップ問題を行う。</p> <p>○「お話びじゅつかん」の教師見本を見て、本を読み、心に残った場面を紹介する活動を知り、学習のめあてを知る。</p>	一斉	<p>・登場人物</p> <p>・登場人物の行動を簡単に把握すること</p>	<p>○<b>手立て②継続的なパワーアップ問題の取組</b> 書く・話す・題名をつける・聞く・読む活動を1週間ごとに繰り返し、それぞれの学習活動に慣れ、基礎的な力を高められるようにする。</p> <p>・語られる言葉・用いられる表現を正確に把握し、内容を正しく理解する一助となるように、1時間目のみ1単元前に行い、宿題の音読と並行読書を約2週間前から行うようにする。</p> <p>・『わにのおじいさんのたからもの』から教師見本を提示することで、見通しをもちやすくし、どのようなことを紹介するのか、気付けるようにする。</p> <p>①本の題名 ②作者名 ③心にのこったこと</p>
<p>すきな本を一さつえらび、お話びじゅつかんをつくろう。</p>		<p>○本文の範読を聞いて、登場人物や主な出来事確かめる。</p> <p>○初読の感想を書く。</p> <p>○心に残った場面を見つけ、感想を話し合う。</p> <p>○並行読書を開始する。</p>			<p>・挿絵を活用し、主な出来事と、赤おに、青おに、村人の心情の変容等について、大まかに押さえるようにする。</p> <p>◇場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(思判表①) 【ノート・発言】</p>
第二次	②	<p>○本単元のめあてを想起し、2～6時間目のめあてと調べたい問い、学習計画を立てる。</p>	一斉	<p>・学習の見通し</p> <p>- 教材を深める視点(課題)をもつこと</p> <p>- 自分の問い(課題)を立てること</p> <p>- 登場人物の行動や心情が分かるところを見つけ、</p>	<p>・これまでの学習計画を立てたときや学習内容を想起させる声掛けをし、どのようなことに注目して学習を進めたらよいか、まためあてを立てたらよいか、読んでいったらよいかを考えられるようにする。</p> <p>○<b>手立て①問いの精選</b> 問いは初発の感想から既に感想や疑問として挙げたものや、一斉での教師との</p>
<p>ようすがよくあらわれている文や絵をさがし、赤おに・青おにの気持ちをじっくりそうぞうしよう。</p>					

<p>3 4 5</p>	<p>○自分が探究したい課題（問い）を選択する。</p> <p>○学び方を確認する。</p> <p>○探究学習を行う。</p> <p>・ ○自分の考えを、ワークシートやノート、</p> <p>・ オクリンクプラスに</p> <p>5 記す。</p> <p>○オクリンクプラス上の課題の設定されたページに、自分の考えを投稿する。</p> <p>○同一でも異なった問いでも、友達と考えを交流し、教材文「ないた赤おに」への自分の考えを深める。</p> <p>○1 つ目の課題の追究を終えたら、別の問いに取り組む。</p>	<p>個別 協働</p>	<p>まとめること</p> <p>- 行動について具体的に想像し、書いたり伝えたりすること</p> <p>・ 学習課題の設定</p> <p>・ 学習計画立て</p> <p>・ 探究したい課題（問い）を選定すること</p> <p>・ 学び方を理解すること</p> <p>・ 登場人物の行動を具体的に想像すること</p> <p>・ 課題（問い）にかかわる描写を見つけること</p> <p>- 気持ちや性格を表す語句</p> <p>- 語り手</p> <p>- 場面の移り変わり</p> <p>- 地の文</p> <p>- 会話文</p> <p>- 情景</p> <p>・ 友達に自分の考えを伝えること</p> <p>・ 教材文「ないた赤おに」についての感想を深めること</p> <p>・ 友達に自分の考えを伝えること</p> <p>・ 多角的な視点で考えてみようとする</p> <p>・ 教材文「ないた赤おに」についての感想を深めるこ</p>	<p>対話の中から出された意見等から、描写が複数個所に書かれていたり想像を膨らませたりすることができる問いを精選する。</p> <p>・ 既習を生かし、描写をもとに想像を広げて考える活動をイメージできるようにする。</p> <p>・ 探究学習は個別最適なものとなるよう、学習形態を「個・ペア・グループ・教師と」から自分で選んで活動するように説明する。ただし、すぐに友達と一緒に考えたがる児童が多いため、まずは個人で考えをもつことが大事であることを約束事として伝える。</p> <p>・ 課題ごとの児童名はタブレット上のエクセルで一覧とすることで、教師がいつでも把握し支援したり、児童が考えを交流する友達を把握したりし易くなるようにする。</p> <p>・ 考えをもつことが難しい場合は、まずは友達や教師とあらすじや登場人物の行動、課題にかかわる内容等について会話して考えを伝え合うことで、自分の考えが整理されたり深められたりするようにする。</p> <p>○<b>手立て⑩学習の手引きの作成</b> 主体的に活動できるように、児童と確認した単元全体、ならびに1 単位時間の進め方を Canva にまとめ、児童がいつでも確認できるようにする。</p> <p>○<b>手立て⑥ワークシートの活用</b> 一人で考えることに困難さを感じる児童には、場面を限定し描写や挿絵を入れたワークシートを配布したり、前方に集めて一緒に考えるようにしたりする。</p> <p>○<b>手立て③対話する場の設定と喚起、また話し合いのモデルの提示</b> あ</p>
----------------------	---	------------------	---	---

			と	<p>る程度の考えがまとまったら1時間に1回はオクリンクプラス等を参考に、気になる意見の友達と考えを交流する(自分の考えをアウトプットする)ようにして、児童の考えが広がるようにする。また、「話し合いの問いかけ例」をモデルとして掲示しておき、必要に応じて活用できるようにする。</p> <p>○手立て④オクリンクプラスの活用 簡単な反応を示せるコメントやリアクション機能を効果的に使用し、学習意欲を向上させたり対話の糸口になったりするようにする。</p> <p>・授業アンケートを7分取り、児童の考えの変容や学習の実態を把握する。</p> <p>○手立て⑧オクリンクプラス・ノート・授業アンケートを活用した形成的評価とフィードバック・手立て⑩学習進度や内容の教師の見取り 児童の進み具合を確認するとともに、授業アンケート設問7(本学級独自「次の学習の見通しをもっていますか」)から学習への困り度合いを把握し、オクリンクプラス・ノートの場合はコメントにて学び方の称賛や助言を行う。</p> <p>◇場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 (思判表①) 【発言・ノート・ワークシート・オクリンクプラス・授業アンケート】</p> <p>◇言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとしている。</p> <p>(主①) 【発言・発表・授業アンケート】</p>
6	○青おにの自分を犠牲	協働		・机をコの字型に配列し、学級全体で

	にした行動のおかげで赤おにの願いは叶ったのかをテーマに掲げ、班→学級全体で話し合う。	一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>多角的な視点で考える楽しさを知ること</li> </ul>	<p>思いを述べ合い深めやすい雰囲気をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師は、青おにや赤おにの心情をより想像するための繰り返し発問や、その後の展開を想像させるような発問、自分の体験と結び付ける発問等をし、児童の想像を広げ、「ないた赤おに」の奥深さや読書の楽しさを感じられるようにする。</li> </ul> <p>◇場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。</p> <p>(思判表①) 【発言・授業アンケート】</p> <p>◇文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(思判表②) 【発言・授業アンケート】</p>
7 ・ 8	<p>○心に残った場面を紹介する絵について、題名の付け方の工夫について意見を出し合う。</p> <p>○絵に合う題名を考え、紹介カードに「心に残ったこと」と「その理由」を書く。</p>	個別 協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝えたい場面を選ぶこと</li> <li>題名を付けること</li> <li>自分の思いを書くこと</li> <li>質問を予想し、回答を考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師のモデルを再度確認し、自分の体験と結び付けて、「おに」と自分を比較して訳の中に書くことができるようにする。</li> </ul> <p>○<b>手立て⑥ワークシートの活用</b> 一人で考えることに困難さを感じる児童には、場面を限定し描写や挿絵を入れたワークシートを配布したり、前方に集めて一緒に考えるようにしたりする。</p> <p>◇文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(思判表②) 【ワークシート・発言】</p>
	○心に残った場面について、絵をもとに紹介し合う。	協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>心に残った場面を伝え合うこと</li> <li>質問を考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の発表を聞く際は、三次の「お話びじゅつかん」の学習に生かすことができる点を見つけるように促し、自分の発表をよりよいものに高める意識をもてるようにする。</li> </ul> <p>◇言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。(知技①) 【発言・ワークシート・授業アンケート】</p> <p>◇言葉がもつよさを感じるとともに、</p>

					<p>楽しんで読書をし、国語を大切に して、思いや考えを伝え合おうとして いる。</p> <p>(主①) 【発言・発表・授業アンケート】</p>
第 三 次	9	<p>○「お話しじゅつかん」 の作り方を確認す る。</p> <p>○並行読書した本の中 から、紹介したい本 を決め、心に残った 場面の絵を描き、そ れに合う題名を考え る。</p> <p>○紹介カード(心に残 った場面・その訳)を 書く。</p>	個別 協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたい場面を選 ぶこと</li> <li>・題名を付けること</li> <li>・自分の思いを書く こと</li> <li>・質問を予想し、回 答を考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時を参考に、自分の体験と結び付 けて自分と比較したり、『ないた赤 おに』のおにと比較したりしたこと を、訳の中に書くことを確認する。</li> <li>・「予想される質問例」を考えるよう にし、発表後の質問に答えられるよ うにする。</li> <li>○<b>手立て⑥ワークシートの活用</b> 一 人で考えることに困難さを感じる 児童には、場面を限定し描写や挿絵 を入れたワークシートを配布した り、前方に集めて一緒に考えるよう にしたりする。</li> <li>◇文章の内容と自分の体験とを結び 付けて、感想をもっている。(思判 表②) 【ワークシート・発言・授業 アンケート】</li> </ul>
	10	<p>○「お話しじゅつかん」 を開き、心に残った 場面を紹介し合う。</p>	個別 協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>・心に残った場面を 伝え合うこと</li> <li>・質問を考えること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お店方式で行う。</li> <li>・発表を聞く際は、必ず質問をするよ うにする。</li> <li>・次時に生かすことができるよう、紹 介された本について、メモを取るよ うにする。</li> <li>◇言葉には、事物の内容を表す働き や、経験したことを伝える働きがあ ることに気付いている。(知技①) 【発言・ワークシート・授業アンケ ート】</li> <li>◇言葉がもつよさを感じるとともに、 楽しんで読書をし、国語を大切に して、思いや考えを伝え合おうとして いる。</li> <li>(主①) 【発言・発表・授業アンケ ート】</li> </ul>
	11	○紹介された本の中	個別	・読書のよさや楽し	・友達の紹介した本を再度確認できる

	<p>で、読みたいと思った本を読み、感想をオクリンクプラスで共有する。</p> <p>○単元の振り返りをする。</p>	協働	<p>さ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の学習成果の振り返り</li> </ul>	<p>ように、紹介カードをオクリンクプラスに挙げ、教室にも掲示しておく。</p> <p>○手立て⑦Teams を活用し、単元学習後の意見交流の場の設定 本活動からさらに日頃の読書活動に発展するように、オクリンクプラスに感想を挙げるようにするとともに、Teams の学級のチャンネルに「読書の広場」を開設し、本の感想を共有して読書の楽しみが広がるようにする。</p> <p>◇読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(知技②)【ワークシート・発言・授業アンケート】</p>
--	---	----	--	--

## 7 本時の学習指導 (2 / 11 時間)

### (1) 目標

- ・様子がよく表れている描写や絵をさがし、登場人物の行動を具体的に想像することができる。

### (2) 展開

学習活動	学習内容	・指導上の留意点○手立て◇評価【方法】	時間
<p>1 本単元のめあてを想起し、2～6時間目のめあてと調べたい問い、学習計画を立てる。</p> <p>ようすがよくあらわれている文や絵をさがし、赤おに・青おにの気持ちをじっくりそうぞうしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の見通し</li> <li>- 教材を深める視点(課題)をもつこと</li> <li>- 自分の問い(課題)を立てること</li> <li>- 登場人物の行動や心情が分かるところを見つけ、まとめること</li> <li>- 行動について具体的に想像し、書いたり伝えたりすること</li> <li>・めあての設定</li> <li>・学習計画立て</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習計画を立てたときや学習内容を想起させる声掛けをし、どのようなことに注目して学習を進めたらよいか、まためあてを立てたらよいか、読んでいったらよいかを考えられるようにする。</li> </ul>	15

<p>3 自分が探究したい課題（問い）を選択する。 共有のエクセルの自分の選択した課題の欄に、記名する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 探究したい課題（問い）を選定すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 問いは初発の感想から既に感想や疑問として挙げたものや、一斉での教師との対話の中から出された意見等から設定し、選択式で自分の問いとすることができるようにする。</li> <li>・ 課題ごとの児童名はタブレット上のエクセルで一覧とすることで、教師がいつでも把握し支援したり、児童が考えを交流する友達を把握したりし易くなるようにする。</li> </ul>	<p>3</p>
<p>4 学び方を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学び方を理解すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既習を生かし、描写をもとに想像を広げて考える活動をイメージできるようにする。</li> <li>・ 探究学習は個別最適なものとなるよう、学習形態を「個・ペア・グループ・教師と」から自分で選んで活動するように説明する。ただし、すぐに友達と一緒に考えたがる児童が多いため、まずは個人で考えをもつことが大事であることを約束事として伝える。</li> </ul> <p>○手立て⑩学習の手引きの作成 主体的に活動できるように、児童と確認した単元全体、ならびに 1 単位時間の進め方を Canva にまとめ、児童がいつでも確認できるようにする。</p>	<p>5</p>
<p>5 探究学習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の考えを、ワークシートやノート、オクリンクプラスに記す。</li> <li>・ オクリンクプラス上の課題の設定されたページに、自分の考えを挙げる。</li> <li>・ 同一でも異なった問いでも考えを友達と交流し、教材文「ないた赤おに」への自分の考えを深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気持ちや性格を表す語句</li> <li>・ 語り手</li> <li>・ 場面の移り変わり</li> <li>・ 地の文</li> <li>・ 会話文</li> <li>・ 情景</li> <li>・ 登場人物の行動を具体的に想像すること</li> <li>・ 課題（問い）にかかわる描写を見つけること</li> <li>- 気持ちや性格を表す語句</li> <li>- 語り手</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の問いに合った描写を見つけやすいように、全文を 1 枚にまとめた「全文読み」の資料を用意する。児童は、大事だと思った個所に色を付けたり登場人物によって色分けしたりしながら活動を進めるようにする。</li> </ul> <p>○手立て⑥ワークシートの活用 一人で考えることに困難さを感じる児童には、場面を限定し描写や挿絵を入れたワークシートを配布したり、前方に集めて一緒に考えるようにしたりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特に支援する児童へ声掛けを行い、つまづいている個所を把握し支援する。</li> <li>・ ある程度の考えがまとまったり時間が経過したりしたら、オクリンクプラスに自分の</li> </ul>	<p>12</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>- 場面の移り変わり</li> <li>- 地の文</li> <li>- 会話文</li> <li>- 情景</li> <li>・友達に自分の考えを伝えること</li> <li>・教材文「ないた赤おに」についての感想を深めること</li> <li>・友達に自分の考えを伝えること</li> <li>・多角的な視点で考えてみようとする</li> <li>こと</li> <li>・教材文「ないた赤おに」についての感想を深めること</li> </ul>	<p>考えを挙げ、気になる意見の友達と考えを交流するようにして、児童の考えが広がるようにする。</p>	
<p>6 本時の振り返りを する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケートを7分取り、児童の考えの変容や学習の実態を把握する。</li> <li>・L-gate の「毎日の授業」に挙げられた児童の感想を確認し、言葉のはたらきにかかわる意見を記した感想を全体に広げる。</li> <li>○手立て⑧オクリンクプラス・ノート・授業アンケートを活用した形成的評価とフィードバック・手立て⑩学習進度や内容の教師の見取り 児童の進み具合を確認するとともに、授業アンケート設問7（本学級独自「次の学習の見通しをもっていますか」）から学習への困り度合いを把握し、オクリンクプラス・ノートの場合はコメントにて学び方の称賛や助言を行う。</li> <li>◇場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(思判表①) 【発言・ノート・ワークシート・オクリンクプラス・授業アンケート】</li> </ul>	<p>7</p>
<p>7 次回の活動を確認する。</p>			<p>1</p>



# 研究構想図

学校教育目標 夢と希望をもち 豊かな心でたくましく生きる子の育成

**研究主題** 教育データを活用し、「分かった」「もっとやりたい」子の育成を目指した指導と評価の工夫

## 授業の改善

主体的・対話的で深い学びとなる  
指導と評価の充実

<手だて>

- ・学習の見通しをもったり自分の考えをもったりし、主体的に取り組めるようにするための工夫
- ・対話的な学びとなるための工夫
- ・深い学びとなるための工夫
- ・個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実  
(・学習スタイルを意図的に設定した単元計画、  
・シンキングサイクルの掲示物を活用した授業、  
・発問の吟味・これまでの研究実践を生かして)

↳孤立した学びにならないように

<教育データ>

ア) スクールダッシュボード

①様々な教科で (教師が自分事として)

②各教科で身に付けさせたい資質・能力と児童の実態をもとに、児童にどのような力を付けさせたいかを明確にする。

③本校の研究主題・概要を意識して、手だてを考える。

④Excelでそれらを共有する。

**教師が変われば  
学校が変わる**

児童一人ひとりの状況の把握(学習・生活)

学級・学年・学校全体の状況の把握

きめ細かな  
指導・支援

実態の  
把握

教育  
データの  
分析

- 児童の実態
- ・児童の学習習慣や生活経験に差がある。
  - ・主体的に学ぶ児童が多い。
  - ・基礎学力の定着が課題。
  - ・基本的な語句や計算の意味等の理解
  - ・資料や情報を関連付けて思考すること
  - ・自分の言葉で表現すること
- Well-being  
学力(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」認知能力、  
「学びに向かう力、人間性」非認知能力)

## 手だて (例)

### <主体的>

- 1, シンキングサイクルの掲示物を活用した授業
- 2, パワーアップ問題
- 3, モデルの提示 (例示)
- 4, 既習の確認
- 5, 発問の吟味

### <対話的>

- 6, 対話する場の設定

### <深い学び>

- 7, 誤答の提示と根拠の明確化
- 8, 情報を精査する活動の設定
- 9, ループリックを生かした自己成長を促す場の設定
- 10, 探究学習のある単元計画

### <個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実>

- 11, 学習スタイルを意図的に設定した単元計画

- 12, その他 (自由設定...具体的な手立てを記述してください。)